

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
春日部地域	春日部市	平成 24 年度～平成 30 年度	平成 24 年度～平成 30 年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標		現 状 (平成22年度)	目 標 (平成31年度) A	実 績 (平成31年度) B	実績 /目標
排出量	事業系 総排出量	21,546 t	20,630 t	22,294 t	108.1%
	1 事業所当たりの排出量	2.8 t	2.7 t	3.2 t	118.5%
	生活系 総排出量	t	t	t	%
	1 人当たりの排出量	219.2 kg/人	204.5 kg/人	210.3 kg/人	102.8%
	合 計 事業系生活系総排出量合計	80,805 t	76,009 t	77,120 t	101.5%
再生利用量	直接資源化量	t	t	t	%
	総資源化量	14,423 t	19,526 t	17,561 t	89.9%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t	%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標		現 状 (平成22年度)	目 標 (平成31年度) A	実 績 (平成31年度) B	実績 /目標
総人口		240,708	241,232	233,841	—
公共下水道	汚水衛生処理人口				%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口				%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	31,553	33,350	24,901	74.7%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	13.1%	13.8%	10.6%	61.6%
未処理人口	汚水衛生未処理人口				%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

【ごみ処理】

○事業系ごみ

県から頂いた事業系ごみ削減キャンペーンのリーフレットの配布や、抜き打ちの搬入物検査を実施するなど、削減に努めたが、大型ショッピングモール等の開業及び旧庄和町と旧春日部市をつなぐ藤塚米島線の開通に伴う事業系ごみの増加が一因と考えられる。現在、ショッピングモール周辺の開発が進んでいるため、さらなる減量化は難しい状況と考えられる。

○生活系ごみ

排出量としては、目標を達成したが、1人あたりの排出量については目標を下回ってしまった。これについて、「終活」や「断捨離」などのブームにより、ものを持ちすぎない生活スタイルを求めて、ごみを処分する傾向があるため、1人あたりの排出量が増えていると考えられる。

○総資源化量

総資源化量が目標より大きく下回った要因として、①食品リサイクル・樹木、②集団資源回収量が挙げられる。

- ① 食品リサイクル・樹木については、事業系ごみの食品残渣、剪定枝の堆肥化等の増加を見込んだが、結果として目標より約 690 t 余り下回った。先進的な事業所においては食品ロス削減の取組みにより食品残渣排出量の減量化が進む一方で、分別の手間などから食品リサイクルへの取組みの進まない事業所があることが考えられる。また、登録再生利用事業者が近隣に無いことと共に食品リサイクルを取り扱う収集運搬許可業者が、ほとんど増えていないことも要因の一つと考えられる。
- ② 集団資源回収については、新聞発行部数の減少や古紙類の取引価格の下落による回収業者の撤退、少子高齢化による団体活動の低下などにより、約 540 t 下回ったと考えられる。また、全体的に資源となる容器包装そのものの減量化が進んでいること、総人口の目標と実績との乖離（約 7000 人減）による排出量の減量が考えられる。一方でスチール缶等 1 人あたりの資源化量は目標より 30% 増加していることから、ゴミニケーションカレンダー等による分別の周知は一定程度の効果が出ていると考えられる。

【生活排水処理】

○合併処理浄化槽等

市の総人口が計画以上に減少しているが、公共下水道の接続人口は計画以上に増加している。そのため、合併処理浄化槽等の污水衛生処理人口は減少しているが、生活排水処理は効果的に行えていると考えられる。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和2年度まで

【ごみ処理】

○事業系ごみ

抜き打ち検査（ごみ検査）を実施し、引き続き、ごみの分別排出を促していく。事業系ごみの排出量については、周辺の開発もあり、今後は上昇が見込まれる。そのため、排出量が逡減できるよう、引き続き情報提供や指導を通じて、事業者へ排出抑制を促していく。

○生活系ごみ

総排出量については、目標を達成できているため、引き続き、広報や市ホームページ、ゴミニケーションカレンダー等により3M（マイはし、マイバック、マイボトル）の実践や、資源物の分別、集団資源回収への協力などを周知し、発生量の抑制を促していく。食品ロスを削減するため、市ホームページで食品ロスに関する取組等の特集を組む。

○総資源化量

食品リサイクル・樹木については、排出事業者への周知・啓発を推進する。資源物については、さらにゴミニケーションカレンダー等で分別の周知を行っていく。集団資源回収の実施方法や申請方法を記載したマニュアルの配布などによる活動団体の積極的な支援や、広報等での協力を促す。

【生活排水処理】

○合併処理浄化槽等

合併処理浄化槽等の污水衛生処理人口は減少しているが生活排水処理は効果的に行えていると考えられる。浄化槽補助金を有効活用して転換をさらに促進し、生活排水処理の向上を図る。

(都道府県知事の所見)

春日部市の目標未達成の原因を分析すると、以下のとおりである。

1 排出量

(1) 事業系ごみの排出量

道路開通に伴う大型ショッピングモール等の開業による事業所数の増加に合わせて、ごみ減量に向けて具体的な施策を行えなかったことが要因と想定される。

(2) 家庭系ごみの排出量

市内の世帯数の増加と、令和元年度台風19号等による被災ごみや、一般持ち込みの無料措置による家庭ごみの搬入の増加によることが想定される。

2 総資源化量

食品リサイクルの取組みが進まない事業所があることが要因と想定される。

以上のことから目標を達成するためには、これまでの施策を継続するとともに、新たな施策を検討する必要がある。検討内容としては以下を参考とされたい。

1 排出量

(1) 事業系ごみ

ごみの削減に向けて、積極的な情報提供及び指導等を行い事業者の排出抑制への意識向上を図られたい。

(2) 家庭系ごみ

出前講座等の環境教育や普及活動等の実施や、住民が資源回収を自主的に実施することを促す制度を活用することにより、ごみの減量・分別・リサイクル等に対する意識の向上や資源化への理解のための施策に取り組まれたい。

2 再生利用量

事業所に向けて、ごみの減量・分別・リサイクル等に対する意識の向上や資源化への理解のための施策に取り組まれたい。

改善計画書に掲げられた施策を確実に実施し、改善に努めることによりさらなる循環型社会の形成推進に期待したい。